

10.九州（地域別調査機関：（財）九州経済調査協会）

（-：回答が存在しない、：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
家計 動向 関連	良く なっている	スーパー（店 長）	単価の動き	・今月はほぼ1年ぶりに客数、販売量、単価が上昇する という極めていい状態であった。特にこの中 で値下げした防寒衣料の処分が非常に良く売れたほ か、食品も堅調であり、営業日数が1日少ないにもか かわらず前年比104%という売上であった。
		競輪場（職員）	販売量の動き	・例年2月は発売が落ち込むことが多いが、今年に 入ってから好調が持続している。また上がり幅は急激 なものではないが、確実な動きとなっている。
	やや良く なっている	商店街（代表 者）	来客数の動き	・19日からの佐賀城下ひな祭りにより人通りが増えて おり、商店街も活気付いている。
		百貨店（営業担 当）	来客数の動き	・福岡市天神地区では、2月の地下鉄新線開通に伴い 来街者が増加した。販売量も、うるう年の日数調整を すれば前年を上回った。
		百貨店（売場担 当）	販売量の動き	・現在のところ販売量、入店客数の動きは前年を上 回っている。長崎ランタンフェスティバルが若干中旬 にずれている中で前年並みという状況は、必ずしもい いとは言えないが、3か月前と比べると若干回復して いる。ただし主力の衣料品は相変わらず若干低調な動 きであり、食料品関係、催事等で売上を上げている状 況である。
		スーパー（経 理担当）	販売量の動き	・前年より営業日が1日少ないにもかかわらず、ほぼ 前年の実績を維持している。ここ数か月は既存店で前 年を2～3%上回っており、新聞報道されているよう な前年割れは起こっていない。
		一般レストラン （経営者）	来客数の動き	・来客数が増えた。効果的な広告を打つと客はそれに 反応するため、客の経済力はまだ残っている。
		タクシー運転手	お客様の様子	・今月は県外からの客が前年に比べ多かったため、良 かった。
		ゴルフ場（従 業員）	単価の動き	・九州新幹線の開通から1年たち、観光客が例年に比 べ1割増えた。客単価も売上に伴って高くなった。
変わらない		商店街（組合職 員）	来客数の動き	・午前中の来街者、特に中高年のニーズに応じ開店時 間を早めるなど、地方ならではの動きがみられる。そ の結果、徐々にではあるが来街者が増加している。
		商店街（代表 者）	来客数の動き	・向かいにある50数年続いていた同業支店が今月廃業 した。そういったことから景気は低迷している。
		一般小売店〔鮮 魚〕（店員）	競争相手の様子	・同業者に聞いても、売れないと言う話ばかり。実際 に来店数が伸びない。
		一般小売店 〔茶〕（店長）	来客数の動き	・来客数が年々減少している。通常の月は特に減少が 激しいが繁忙期に関してはある程度抑えられている。
		百貨店（営業担 当）	販売量の動き	・うるう年を考慮しても、販売額は前年割れとなっ ている。新幹線部分開通後、ほぼ1年経過し落ち着き が出てきた。しかし福岡市天神地下街の延長により、客 の天神へ関心が高まり、集客に影響が表れている。
		百貨店（販売促 進担当）	お客様の様子	・福岡市では地下鉄開業というトピックがあり、集 客、売上は多少良いようにみえたが、その効果は長続 きしていない。福岡市天神地区3百貨店を見渡して も、良いのは下層階の食品売場のみで、その他は良く ない。購買自体が良くなっているとは言いがたい。
		百貨店（販売促 進担当）	単価の動き	・2月に入り、極端に客単価が落ちた。
		百貨店（営業企 画担当）	販売量の動き	・客数は前年の近隣百貨店の閉館売り尽くしの影響の 反動で前年実績を超えている。ただし販売額は、営業 日1日減や下旬までの気温の低下等で不振である。
		スーパー（経 営者）	販売量の動き	・商品の低価格化が目立っている。
		スーパー（店 長）	それ以外	・天候不順、営業日1日減等により、景気は非常に不 安定である。気温の変化が激しく、冬物の商品の動き が非常に鈍い。
		スーパー（店 長）	販売量の動き	・地域や店舗年齢によって大きな差が出ている。新し い店舗や競合があまり起こっていない店舗では前年比 104%でやや良いが、そうでない店舗は前年実績を下 回るという状況である。

スーパー（総務担当）	お客様の様子	・客の購買動向をみると、まだまだデフレを引っ張っていて、低価格指向は依然として強い。
コンビニ（エリア担当）	単価の動き	・今月は特に買上点数が低く、低単価商品へのシフトが目立つ。特に昼食に顕著に表れている。
衣料品専門店（店員）	単価の動き	・売上自体は前年に比べ良くなっているが、単価がかなり低い。客は割引率が高い物しか選ばず、またどんなに割引率が高くても、悩んだ結果やめるといふ光景ばかりを毎日見ている。春物プロパー商品も今一つである。
家電量販店（経営者）	販売量の動き	・依然として本当に必要なものの購入しかなく、購入に当たっては厳選するケースが多い。展示会も開催したが、来場客数も売上も前年を下回った。
家電量販店（店長）	販売量の動き	・客数、客単価とも横ばいで、前年並みである。
家電量販店（店員）	お客様の様子	・昨年あたりから見受けられる現象であるが、一人暮らしの客がなるべく安く済ませようと最低限のものだけを買う。しかも安いものだけで済ませようという傾向がある。
家電量販店（企画担当）	販売量の動き	・家電関係は、今年に入り昨年のオリンピック需要の反動がテレビ関係に出ている。台数的には同じくらいだが単価がやや下がり、売上が下がっている。その反面、DVDや新しい洗濯機の需要が伸びており、全体的にはとんとんである。
乗用車販売店（販売担当）	販売量の動き	・単価は変わらないが、販売量が一昨年、3か月前と比べてやや鈍くなっている。
住関連専門店（経営者）	来客数の動き	・今年に入り来客数は順調である。
その他専門店 [ガソリンスタンド]（統括）	販売量の動き	・寒さが本番に入り、また地方のイベントもあり県外客が3連休期間を含み多数訪れたが、販売量は昨年とさほど変わらなかった。
高級レストラン（専務）	販売量の動き	・新幹線開業効果が大幅に薄れ、駅も繁華街の天文館も客の流れがかなり昔に戻ってきた。悪くなっている状態である。
一般レストラン（スタッフ）	来客数の動き	・寒い日が多く、雪も降ったため来客数に影響があった。基調としては底をはう動きが続いている。
観光型ホテル（スタッフ）	販売量の動き	・長崎ランタンフェスティバル期間中で宿泊・レストランの売上は伸びたが、その他の日は前年割れしている。
都市型ホテル（スタッフ）	お客様の様子	・昨年以來、大分市内のホテル稼働率は比較的高稼働で推移している。ただし、これは大手製造業の新工場建設に伴う一過性のものと判断している。
旅行代理店（従業員）	販売量の動き	・関東、関西の大型テーマパークが最近好調である。海外は、アジアリゾートが学生、ハネムーンに避けられ、ハワイもファミリーにもう一つ人気がない。
旅行代理店（業務担当）	販売量の動き	・受注水準は前年並みに戻ってきているが、ビジネス旅行が多く、例年では増えてくる家族旅行の動きは前年を下回っている。
タクシー運転手	来客数の動き	・長崎ランタンフェスティバル期間中は、週末となれば団体ツアーも多くかなりの人手があり、例年になくにぎわっている状況である。ただし、ホテル、土産物屋の利用客は多かったが、団体客が多いのでタクシーの利用はあまりなく、影響はない。近場の客は幾らかあったようである。
通信会社（総務担当）	来客数の動き	・最近窓口に来る客が若干増えてきた。ただし、販売量はそう変わっていない。
通信会社（業務担当）	来客数の動き	・2月の販売は好調なスタートを切ったが、週末と平日との販売台数の増減が激しかった。週末は来店客数も多く、客があふれ待ち時間も長くなっている一方、平日は閑散としている。
テーマパーク（職員）	来客数の動き	・2月は海外の旧正月とスポーツキャンプ効果で前年を上回る日が多かった。ゴルフも好調に推移している。

	観光名所（職員）	来客数の動き	・観光施設については、入園者数が前年比75%であった。天候要因を除いても昨年より悪い。特に前年は企画があったが、今年はなく、多少悪くなっている。ゴルフ場についても、入場者数が前年比65%であった。本来の冬の寒さに戻ったことで、ゴルファーに敬遠されたようである。
	美容室（店長）	来客数の動き	・3か月前と比べると悪いが、極端に来客数は減っていない。
	住宅販売会社（従業員）	販売量の動き	・マンションの新築が多く、土地・建物の取得に比べると総額では安いので、そちらへ流れているようだ。
	住宅販売会社（従業員）	お客様の様子	・展示場への客の様子からは、若干住宅需要に動きがあるようだ。
やや悪くなっている	商店街（代表者）	それ以外	・今年は昨年より実働日数が1日少ないことに加え、土日も1回少ないので、売上がかなり減少している。
	商店街（代表者）	来客数の動き	・最近同じ客しか来ない。結果的に同じ人に無理に売るわけに行かないので、売上が低迷している。
	商店街（代表者）	来客数の動き	・今年に入って雪、雨が多く商店街への来客数がかかり減っている。高齢者が多いため、天候に左右されやすい。
	一般小売店〔青果〕（店長）	販売量の動き	・野菜に関しては、日常的に食べるものは買われるが、フルーツは必要以外に購入される様子がない。
	百貨店（売場主任）	お客様の様子	・1月は初売りからセール動きが良く、予算を達成することができたが、2月に入り客のセールに対する興味が薄れ、春物に対しても反応が鈍く、売上が低迷している。
	百貨店（営業担当）	販売量の動き	・1月のセールの動きが良かったため、2月は落ち込みが大きかった。気温の変化が激しく、セール終了後の寒波により春物の動きが鈍化した。週末も来客数が大きく振れる形となった。
	百貨店（営業担当）	お客様の様子	・2月は端境期であり、客の様子からも高額品に対する消費意欲が落ちている。前年と比較して時計、宝飾、美術品に対する消費意欲が少し減退している。プティック関連の数字も非常に厳しい。
	百貨店（業務担当）	来客数の動き	・来客数の減少が顕著である中、買上点数も減っている。気候要因で衣料品の不調もあるが、全体的にはカテゴリーを問わずに低調な売上水準にある。
	百貨店（売場担当）	販売量の動き	・年度末の特別セールをしたが、それにもかかわらず前年比90%弱という結果に終わりそうである。なかなか気温が安定せず、春物衣料がほとんどになった2月中旬には商品と気温のミスマッチが起こり、婦人、紳士の衣料品を中心に厳しい月となった。
	スーパー（店長）	お客様の様子	・食料品は前年並みであるが、衣料品は暖冬のせい以前年比89%である。仕掛ければ売れるが、平日は厳しい状況で冬物衣料の在庫が残っており、衣料品の回復が待たれる。
	スーパー（企画担当）	来客数の動き	・冷え込みによる鍋物商材の動きが良く、客単価は伸びた。しかし雨天・曇天の日が続き、消費者の購買意欲が低迷したことで来客数が前年比11%減と大きく落ち込み、売上高は苦戦を強いられている。
	コンビニ（経営者）	それ以外	・これまでは、客数が減れば客単価がやや上がり、結果的には売上が落ちている、もしくは客単価が下がり客数はそのままという形の落ち方が多かった。しかし今回の落ち方は客数、客単価とも前年を割っている。
	コンビニ（エリア担当）	単価の動き	・今月に入り主力商品である弁当の販売量が落ち込み、売上の減少が目を追って続いている。安価なハンバーガー等の販売量は好調であり、客の財布のひもは一段と固くなっている。
コンビニ（販売促進担当）	販売量の動き	・弁当関係は量販店向けが前年比4.2%減、コンビニ向けが同8.7%減となった一方、ローカルスーパー向けが若干上向きの同3%増となっている。しかし、パンは量販店向けは前年比17.4%減、コンビニ向けは同9.5%減、ローカルスーパー向けは同5.6%減であった。	

		衣料品専門店（店員）	来客数の動き	・冬物の最終セールの人出は多く、売上も昨年を超えたが、その後の春物の出足が悪い。客数が昨年に比べて2割減となっている。特に入卒用のスーツの売上が伸び悩んでいる。
		衣料品専門店（総務担当）	単価の動き	・婦人服、宝飾品とも買上単価が下がっている。売上も前年比6%減で推移している。
		高級レストラン（経営者）	来客数の動き	・来客数の動きもそうであるが、選挙があったので予約が少なかった。少人数の予約が多く、売上も伸びなかった。
		一般レストラン（スタッフ）	単価の動き	・食べ放題のバイキングを火、金曜日に行ったが、多かったのはその日だけで、その日以外は前年より来客数、単価とも下がっていた。
		タクシー運転手	来客数の動き	・朝から帰るまで空車の時間が多くなった。寒いせいか、あまり街中で買物客を見かけなくなった。また、生活できないからとタクシー会社を退職して別の職業を探す人が多くなった。
	悪くなっている	スーパー（店長）	来客数の動き	・食品の競争店が近くにでき、各社がそれに対抗したために客が分散し、客数減が続いている。
		衣料品専門店（店長）	来客数の動き	・客の来街数減少傾向は止まらず、土日はほとんど来店者がいない。
企業動向関連	良くなっている	-	-	-
	やや良くなっている	家具製造業（従業員）	受注量や販売量の動き	・今月は需要期であり、オフィス家具の動きもかなり良い。首都圏の動きは相変わらずおう盛である。また中部地区では愛知万博の影響もあり、物件が多い。大阪地区についてもまあまあのので、関東から地方に好景気が波及している。
		その他サービス業〔物品リース〕（役員）	受注量や販売量の動き	・受注量が増加し、物件情報の量もかなり増えつつある。
変わらない		農林水産業（従業者）	受注量や販売量の動き	・アメリカのBSE関係の代替需要で国産牛肉、豚肉はある程度動いている。しかし価格が高くなったため、消費者行動としてどうしても高いものに手が回らないということから、販売量は非常に減ってきている。
		農林水産業（従業者）	受注価格や販売価格の動き	・1月の天候不良・日照不足により、作物の成長は鈍く、収量も大きく減少している。価格はやや高めで推移しているが、売上高不足を補うほどではない。
		化学工業（総務担当）	受注量や販売量の動き	・機械、電気、土木建築等の工事業者の工事量等が減少している。
		建設業（総務担当）	受注量や販売量の動き	・工事の受注件数がずいぶん増えてきたようだ。1件ごとの受注単価は1,000万円ほどで、工期も短いため、件数をこなさず、うまく回せば遊ばないで済みそうである。
		金融業（営業担当）	取引先の様子	・ここ1年以上に渡り消費者金融のキャッシング、営業貸付金残高の伸びが今一つ伸びず、逆に減少している。
		経営コンサルタント	それ以外	・仕事量そのものは変化していないが、仕事の内容が変化している。合理化を含むリストラ関係が多い。
やや悪くなっている		農林水産業（経営者）	受注量や販売量の動き	・鳥インフルエンザの影響で、生産のほかに鶏の飼付け羽数の減少に不安がある。よって卵の供給不足になっている。原料となる鶏が従来に比べ30～40%少ない状況であり、工場の稼働、売上不足に大きな影響を与えている。
		繊維工業（営業担当）	競争相手の様子	・工場の受注がまだ少なく、追加もないため空きの工場がまだある。国内の工場は淘汰されたとはいえ、まだ受注が少ない工場が少なくない。中国でもクイック生産等ができるようになったと言われているので、国内の工場は厳しい状況にある。
		窯業・土石製品製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・例年2～3月は結構焼き物業界としては動くが、今年は動きが悪い。定番商品の受注がほとんど来ず、量販店の企画もあまりないようである。
		電気機械器具製造業（経営者）	取引先の様子	・半導体関連の電子部品は在庫調整に入っており、1～2月にかけて下降線をたどっている。状況はますます不透明である。
		精密機械器具製造業（経営者）	取引先の様子	・取引先の様子では、少しずつ景気が悪くなっているという話が広がっている。

		輸送用機械器具製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・鋼板価格の高騰にもかかわらず、販売価格に転嫁できない。
		建設業（従業員）	受注量や販売量の動き	・公共工事の減少に加え、まだ民間企業の設備投資にける資金が不足している。
		輸送業（従業員）	受注量や販売量の動き	・受注量が極めて少なく、荷動きが全く良くない。昨年の12月の荷動きが悪かったこともあり、メーカーは在庫を抑えてきている。
		輸送業（総務担当）	受注量や販売量の動き	・全体的に荷動きが悪かった。
	悪くなっている			
雇用 関連	良くなっている	-	-	-
	やや良くなっている	求人情報誌製作会社（編集者）	求人数の動き	・アウトソーシング業、コールセンターの求人が活発になっている。特にコールセンターが福岡地域では高時給で大量募集のため、他の求人に影響が出てきている。例えば、低い時給では人の採用が難しくなっている。また、事務系のアルバイト・パートが集まりにくくなっているなど。
		職業安定所（職員）	求人数の動き	・新規求人数が前年に比べ大幅に増加している。逆に新規求職者数が減少傾向にあり、若干良くなっている。
	変わらない	人材派遣会社（社員）	周辺企業の様子	・年度末需要でオーダー件数が増えているが、料金面で通らない状況である。また料金を変えても交渉テーブルにのっていただけない状況である。
		新聞社〔求人広告〕（担当者）	周辺企業の様子	・新聞の求人広告では、景気を反映してか自動車製造関連はよく出ているが、その他の業種は厳しい。
		職業安定所（職員）	雇用形態の様子	・正社員に対する雇用需要が依然として少ない状況にある。
		職業安定所（職員）	求人数の動き	・新規求人数は顕著に推移しており、有効求人倍率が13年ぶりに1.00倍になった。ただし、その中身を見ると、派遣、請負の求人の割合が依然として高い。
		職業安定所（職員）	採用者数の動き	・求人数は伸びてきていて若干鈍っているが、上半期とその後の2月までの就職状況を比較すると、新規求職者に対する紹介率が14.5ポイント、そのうち就職する率も4.4ポイント上半期に比べて上昇している。また、雇用保険に加入している被保険者数も増加している。
	やや悪くなっている	-	-	-
	悪くなっている	-	-	-